

令和4年度 周南市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和5年5月

周南市（山口県）

○計画期間:令和2年4月～令和7年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和4年度終了時点(令和5年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、令和2年度より、基本計画に基づき、「まちの資源を活かした、誰もが主役となれるまち 公園都市（パークタウン）周南」を中心市街地におけるまちづくりの理念に掲げ、「“賑わい”と“楽しさ”のあるまちづくり」及び「“利便性”と“快適さ”のあるまちづくり」の基本方針のもと、基本計画に掲げる各事業を推進している。

令和4年度は、徳山駅前地区第一種市街地再開発事業による一部施設であるTOKUYAMA DECK D1（オフィス等用途ビル）が9月に完成、10月には、駐輪場棟、屋上庭園もオープンしたことから、駅周辺に新たな賑わいが生まれた。令和5年12月グランドオープン予定であり、現在は、住宅棟やホテル棟、商業棟の工事も進められている。

再開発事業により、周辺の動きも活発となっている。新町通り、みなみ銀座通りについては、老朽化したアーケード等の撤去と、それに伴う市道の整備を行った。令和5年12月グランドオープン後は、再開発施設だけでなく、その周辺の回遊についても期待される。

徳山駅前広場では、通行の安全、迷惑駐車解消を図っていくことなどを課題としており、7月に「徳山駅前広場等条例」を施行し、ルールを明確にしてマナーの向上や快適な空間の保持に努めた。また、駅前広場等の施設の使用申請をする際のガイドラインを策定し、施設の利活用を推進した。

新型コロナウイルス感染症の行動制限が緩和されたことにより、駅前広場等、駅周辺のイベント等も活発化してきたほか、全国的に人口減少が問題となっている中、当市中心市街地の人口は概ね横ばいとなっている。また、中心市街地の地価は住宅地、商業地共に上昇するなど、少しずつ中心市街地の活性化の兆しが見え始めており、引き続き、官民連携して中心市街地活性化を進めていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度12月31日)

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	8,866	8,773	8,693	8,701		
人口増減数	-	△93	△80	8		
自然増減数	-	-	-	-		
社会増減数	-	-	-	-		
転入者数	-	-	-	-		

(2) 地価

		令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
住宅地	児玉町3丁目	74,600	76,100	77,600	79,300		
商業地	御幸通2丁目15番	131,000	131,000	132,000	135,000		
	桜馬場通1丁目13番外	77,600	77,600	78,000	78,600		
	平和通1丁目19番	112,000	111,000	110,000	110,000		
	本町1丁目20番	72,200	72,200	72,400	73,600		
	柳町13番2外	51,100	51,100	51,200	51,600		

2. 令和4年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地活性化協議会では、協議会内に設置したタウンマネジメント会議を中心に、行政と民間が中心市街地の情報や課題を共有・連携しながら計画事業の推進に取り組んできた。

令和4年度は、新町、みなみ銀座の老朽化したアーケード等の撤去や、歩行者利便増進道路制度の導入を進めた。徳山駅前地区市街地再開発事業においては、駅前棟が完成したことで、駅前で働く人や憩う人が増加し、中心市街地の変容を実感できるようになった。

令和5年度は、いよいよ再開発施設がグランドオープンを迎える。市民の期待に応えられるよう再開発事業を引き続き支援するとともに、開設されたまちなか共創センターを核に、官学民連携して様々な事業に取り組むなど、エリア価値向上を図り、さらなる民間投資へと繋げたい。

基本計画に掲げた事業は、新型コロナウイルスの影響により、目標値に達していないものもあるが、昨年度と比べて徐々に上昇傾向にあり、概ね順調に進捗していると評価している。今後も数値目標の達成に向けて、さらに行政と民間が一体となって推進していく必要があり、協議会としても尽力していきたいと考えている。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
みんなが行きたくなる、魅力あるモノ・コトがあふれるまち	物販・サービス業等新規出店数(件)	62 (H26～H30)	83 (R2～R6)	36 (R2～R4)	C	①	①
	中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数(人/年)	936,940 (H30)	1,115,150 (R6)	714,735 (R4)	C	①	①
みんなが快適に過ごせる、歩きたくなるまち	平日歩行者等通行量(人/日)	32,937 (H30)	38,660 (R6)	29,841 (R4)	C	①	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「物販・サービス業等新規出店数(件)」については、基準値62件(1年あたり12.4件)に対し、令和4年度は9件の出店となり、前年の数値及び基準値に達しなかった。一方で、再開発事業に伴う商業施設の出店者募集説明会では、県内外から約50社が出席し、事業に対する関心の高さが窺えるため、今後、更に出店の動きが活発になり、中心市街地全体が活気を帯びていくと考える。

「中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数(人/年)」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、基準値を下回る結果となったが、行動制限の緩和による旅行・観光需用の上昇や、イベントがコロナ前と概ね同等の規模、頻度で開催されたことなどから、全体的に前年よりも増加傾向にある。令和5年度以降も引き続き、文化・観光施設との連携を強化し、中心市街地の回遊性向上、各施設の来館者数等の増加を見込み、目標値の達成を目指す。

「平日歩行者等通行量(人/日)」についても、基準値32,937人に対し、令和4年度は29,841人と基準値に達していないが、TOKUYAMA DECK D1(オフィス等用途ビル)が完成し、駐輪場や屋上庭園がオープンしたことで、駅前に集う人が増え、前年度よりも増加している。令和5年12月に完了する再開発事業において、居住人口、中心市街地への来街者数の増加も見込めることから目標達成は可能であると考えている。

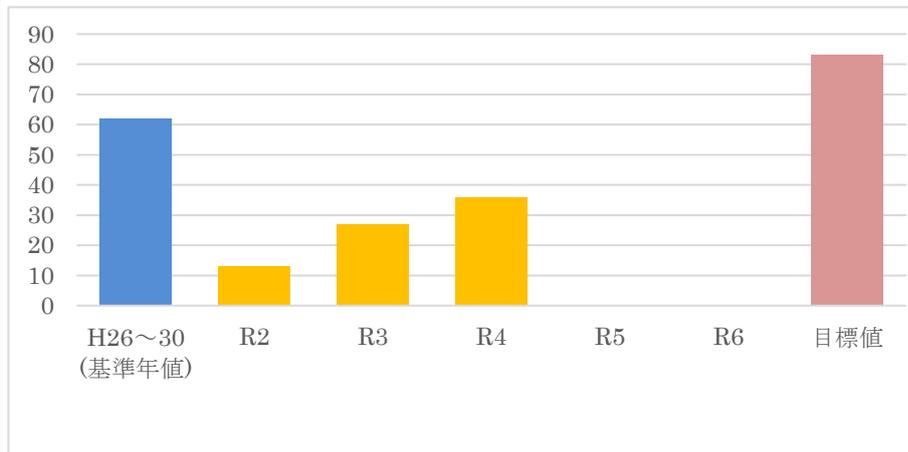
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「物販・サービス業等新規出店数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 81～P. 84 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H26 ～ H30	62 (基準年値)
R2	13
R3	27
R4	36
R5	
R6	83 (目標値)

※調査方法：毎年行っている中心市街地の商店街等の実態調査（営業店舗数、空き店舗数、業種業態割合等）をもとに調査を行う。

※調査月：毎年10月～12月頃

※調査主体：市

※調査対象：中心商店街等

〈分析内容〉

新型コロナウイルスや物価高騰の影響により、新規出店数は9件となり、前年の数値及び基準値に達しなかった。内訳として、7件は徳山駅前地区第一種市街地再開発事業に伴う移転による出店となる。一方、テナントミックス推進事業による補助を行った新規出店2件は、再開発事業の動きを見越した出店であり、既に再開発事業による周辺商店街への好影響が起きていると考える。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業（徳山駅前地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	徳山駅前商店街の一部を大街区化し、業務・オフィス施設、マンション、生活支援サービス、ホテル、商業施設、駐車場、駐輪場、広場等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）【国土交通省】（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値10件 最新値 7件

	令和4年度は、令和5年度の再開発施設全体の開業に先立ちTOKUYAMA DECK D1（オフィス等用途ビル）及び駅ビルにつながる駅前デッキや屋上庭園等がオープンした。
事業の今後について	令和5年度完了に向けて整備を進めていくほか、再開発事業完了に先立ち、再開発事業による周辺商店街への回遊、区域全体での集客を図るまちづくりを進めるための検討を中心市街地活性化協議会と連携して行っていく。

②. 徳山あちこちマルシェ（徳山あちこちマルシェ実行委員会）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	徳山駅南北自由通路から商店街一帯を会場とした回遊性のあるマルシェイベントの実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値3件（②+③） 最新値 ー 令和4年度は開催していないが、当マルシェを参考に新しく主催を希望する団体も生まれ、まちづくりのプレイヤー増加による賑わいの拡大が期待される。
事業の今後について	今後もマルシェの手法を広め、中心市街地内の店舗の魅力の再発見や中心市街地への出店のきっかけとなるよう努めていく。

③. つながる「場面」づくり ～SLS(Super Local Site)～（徳山あちこちマルシェ実行委員会、徳山商工会議所、ナシブドウグミ）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	統一的なマルシェの空間をつくるための、出店用のセットを作成・貸出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値3件（②+③） 最新値 ー 中心市街地内外で開催するマルシェイベントにて、令和4年度は出店用セットを7件貸出した。これにより、同じデザインの店舗が並び、統一された空間のプロデュースを行うことができ、イベントの価値の向上が図られた。

事業の今後について	SNS での発信等により、認知度の向上を図る。
-----------	-------------------------

④. テナントミックス推進事業（徳山商工会議所、株式会社まちあい徳山、周南市）

事業実施期間	平成 13 年度～【実施中】
事業概要	中心商店街において新規出店する民間事業者に対して、店舗改装費、広報宣伝費を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】（令和 2 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	最新値 4 件 令和 3 年度からの特例措置として、重点出店業種に対しては補助限度額を最高 100 万円から最高 200 万円に増額しており、令和 4 年度は 4 件の採択（うち物販・サービス業 1 件）を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、出店に対する機運が低下しやすい状況の中、再開発事業を見越した出店の動きも出てきており、出店に関する相談も定期的にある状況である。
事業の今後について	令和 5 年度は、再開発事業により多様な業種の出店が見込まれることから重点出店業種を設けず、補助限度額を最高 100 万円に変更する。また、引き続きまちなか出店サポートセンター等と連携して事業の周知を図り、商店街へ魅力的な店舗や必要な機能の誘導に繋げる。

⑤. 閉店・物件活用相談サポート事業（株式会社まちあい徳山、周南市街地活性化協議会）

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	商店の閉店や、閉店後の物件の活用に関する相談を受ける窓口の設置
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 5 件 最新値 1 件 株式会社まちあい徳山が、閉店に関する相談を受け、サポートした結果、令和 2 年度には、個人店舗 1 件を株式会社に譲渡する事業承継を行うことができた。 令和 3・4 年度の実績はなし。
事業の今後について	令和 5 年度以降も事業を継続し、店舗の有効活用や新陳代謝を進めていく。

⑥. 徳山駅前市街地再開発事業実施に伴う周辺エリアの回遊性創造プロジェクト（中心市街地活性化協議会、株式会社まちあい徳山）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	徳山駅前地区第一種市街地再開発事業に併せ、中心市街地内の不足業種の洗い出しや、回遊を促すためのマグネットとなるための店舗の抽出、再発見を行うことにより、再開発施設の周辺の商店街への回遊性の向上を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業【経済産業省】令和2年度～令和6年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値 ー 最新値 ー</p> <p>令和2年度のゾーニング&マグネット会議での検討結果に基づき、令和3年度からテナントミックス推進事業の特例措置として、重点出店業種に対する補助限度額を最高100万円から最高200万円とした。</p> <p>令和4年度は重点出店業種に該当する申請はなく、物販・サービス業等の新規出店数は減少しているが、再開発施設のオープンを見込んだ出店もあることから、今後も制度の周知や新規出店希望者の支援を続けていく。</p>
事業の今後について	令和5年度以降も、テナントミックス推進事業等による新規出店希望者の支援により、魅力ある店舗の増加を目指す。

⑦. 空き店舗見学ツアー事業（中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	空き店舗への新規出店を促すために、空き店舗見学ツアーを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値 3件 最新値 0件</p> <p>令和3年度は2回実施。参加者の中から、ツアーで紹介した箇所とは別店舗ではあるが、テナントミックス推進事業と絡めて開業準備を進めた事例がある。令和4年度は実施していないが、令和5年夏頃に開催を予定している。</p>
事業の今後について	令和5年度以降も継続して開催し、新規事業者の呼び込みを目指す。

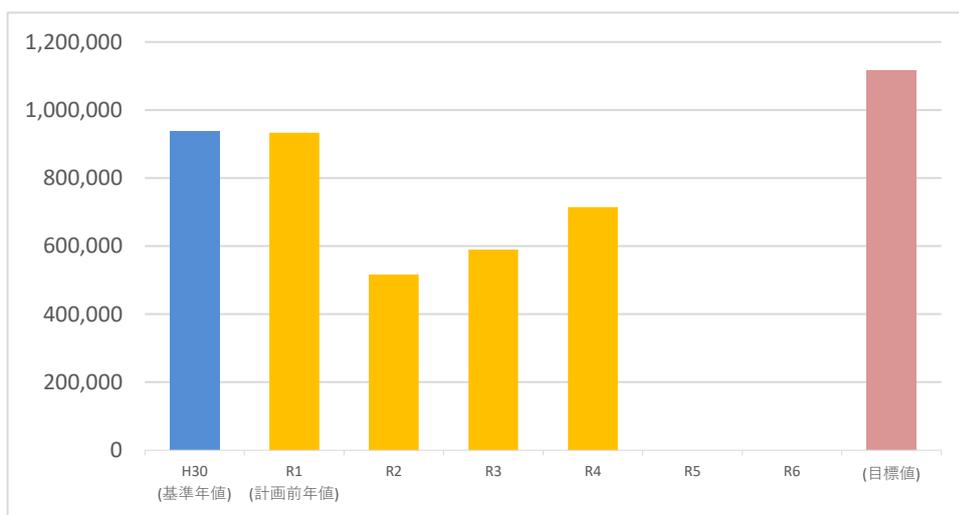
●目標達成の見通し及び今後の対策

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、基準値62件（1年あたり12.4件）に対し、出店数は9件となり、基準値を下回る結果となった。一方で、令和5年12月完了予定の再開発事業に伴う商業施設の出店者募集説明会では、県内外から約50社が出席し、事業に対する関心の高さが窺える。また、再開発事業を見越した出店の動きも出ており、更に出店の動きが活発になると考える。

今後も、テナントミックス推進事業等による出店者の掘り起こしを進め、官民連携して計画を推進し、出店数の増加に努めていく。

（2）「中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 85～P. 88 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H30	936,940 (基準年値)
R1	933,153 (計画前年値)
R2	516,394
R3	589,539
R4	714,735
R5	
R6	1,115,150 (目標値)

※調査方法：【動物園、文化会館、美術博物館、中央図書館】

各施設が公表している年間入館者数（4月～翌年3月）を調査

【宿泊者数】

毎年行っている観光動態調査にて、中心市街地エリア内の年間（1月～12月）観光宿泊者数を調査

※調査月：【動物園、文化会館、美術博物館、中央図書館】

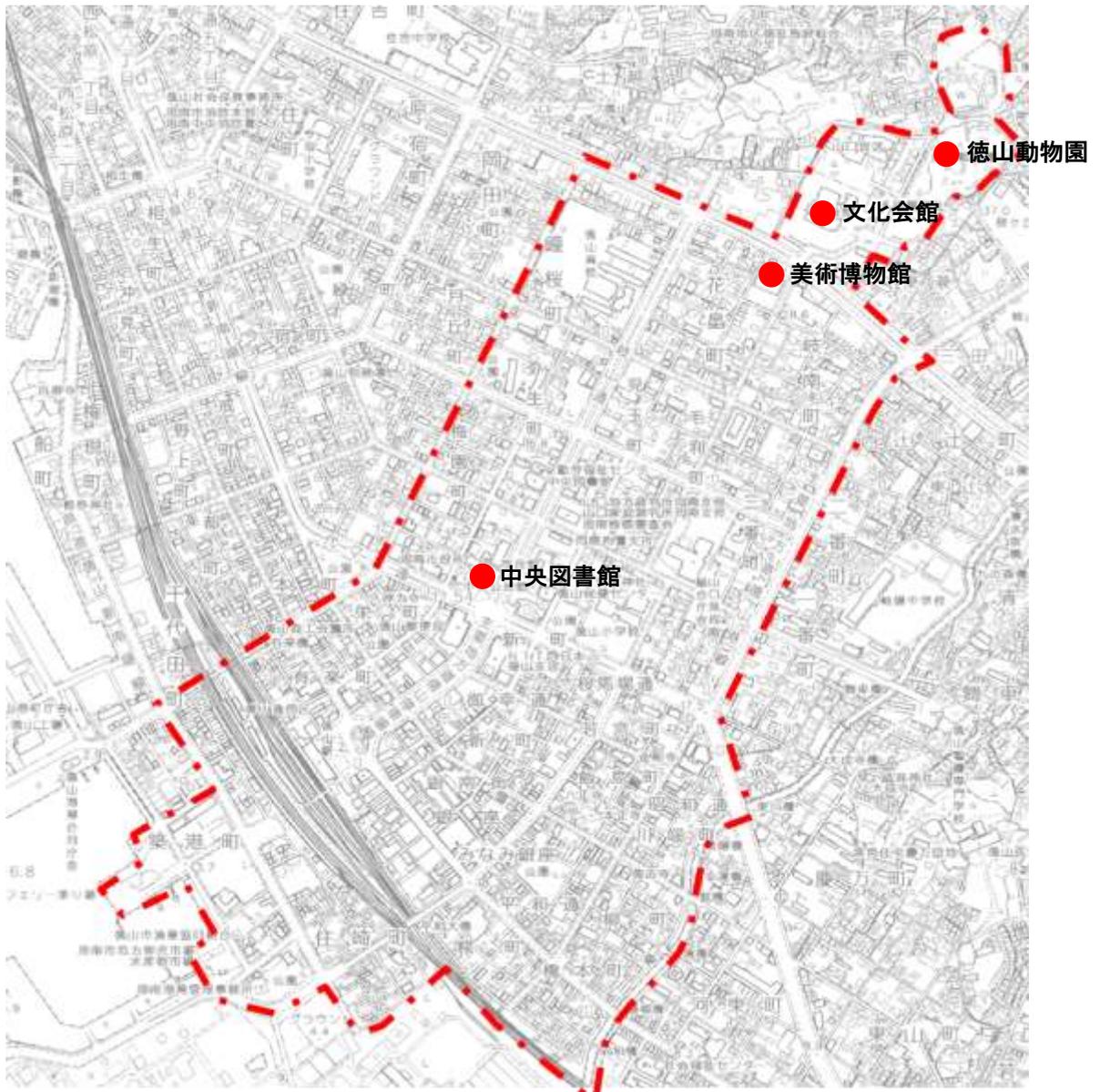
各年4月～3月

【宿泊者数】

各年1月～12月

※調査主体：市

※調査対象：動物園、文化会館、美術博物館、中央図書館、中心市街地エリア内宿泊施設



	R1 (計画前年度)	R2	R3	R4	R5	R6
徳山動物園	268,607	195,757	208,499	263,406		
文化会館	266,557	56,923	112,900	141,144		
美術博物館	108,653	27,189	24,987	40,926		
中央図書館	119,348	102,727	95,509	107,760		
宿泊者	169,988	133,798	147,644	161,499		
合計	933,153	516,394	589,539	714,735		

〈分析内容〉

コロナによる行動制限の緩和や、イベント事業がコロナ前と概ね同等の規模、頻度で開催されたことから、全ての施設で前年度と比べて増加している。徳山動物園では、徳山動物園リニューアル事業が進捗し、アジアの熱帯雨林ゾーンがオープンしたことなどから、来園者数はコロナ前と概ね同等にまで増加した。

また、周南市内の対象施設宿泊者に、市内の飲食店や観光施設などのクーポン券を配布する「泊まって応援！周南お楽しみクーポン」や、全国旅行支援等の観光需要喚起策により、宿泊者数もコロナ前と概ね同等にまで増加した。美術博物館については、施設改修工事のため1月～3月の期間に臨時休館していたことから、大幅な上昇は見受けられなかったが、全体的に前年度から増加傾向にある。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業（徳山駅前地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	徳山駅前商店街の一部を大街区化し、業務・オフィス施設、マンション、生活支援サービス、ホテル、商業施設、駐車場、駐輪場、広場等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）【国土交通省】（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 25,550人 最新値 ー 令和4年度は、令和5年度の再開発施設全体の開業に先立ちTOKUYAMA DECK D1（オフィス等用途ビル）及び駅ビルにつながる駅前デッキや屋上庭園等がオープンした。これに伴い、最寄りの測定地点の通行量は、令和3年度の4,039人から令和4年度は4,216人と増加している。
事業の今後について	令和5年度完了に向けて整備を進めていくほか、再開発事業完了に先立ち、再開発事業による周辺商店街への回遊、区域全体での集客を図るまちづくりを進めるための検討を中心市

街地活性化協議会と連携して行っていく。

②. 徳山動物園リニューアル事業（アジアの熱帯雨林ゾーン）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【済】
事業概要	徳山動物園内に、アジアの熱帯雨林ゾーンを設け、スリ兰卡ゾウやマレーグマ、熱帯雨林の鳥類等の動物を観覧できるゾーンを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園・緑地等事業）【国土交通省】（平成27年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 34,562人 最新値 17,136人 令和2年度にマレーグマ舎及び爬虫類舎の整備が完了したほか、令和3年度は、ゾウ飼育場（ゾウ舎は平成31年度に完了）、ヤマアラシ飼育場、コツメカワウソ飼育場及び園路・植栽等の周辺整備が完了した。
事業の今後について	令和5年度から令和6年度にかけて、極東アジアから北極圏の自然ゾーンの整備を進めていく。

③. 児玉源太郎メモリアル事業

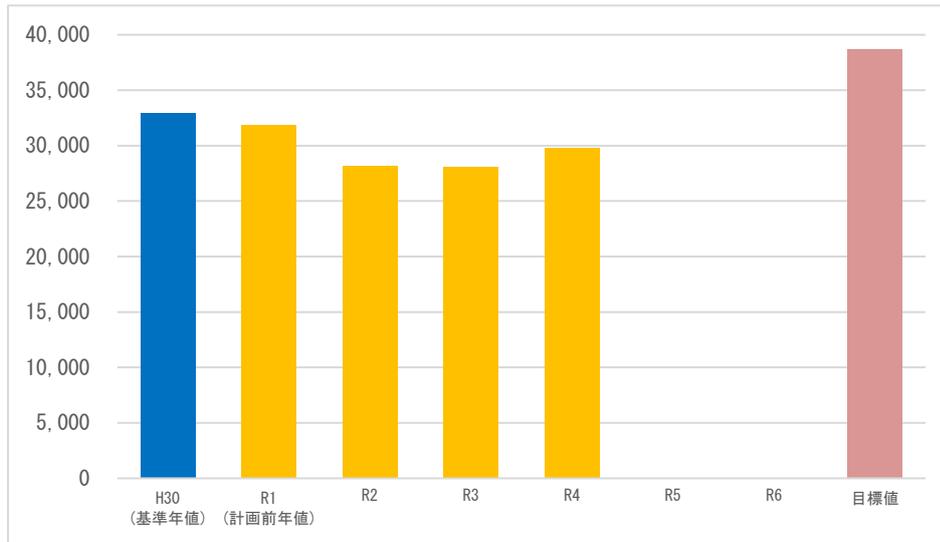
事業実施期間	令和4年度【済】
事業概要	中央図書館にて、児玉源太郎の功績の紹介や、児玉源太郎にまつわる品々を展示するコーナーを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 7,688人 最新値 45,992人 令和4年度に常設の展示コーナーを設置した。
事業の今後について	令和4年度に常設の展示コーナーを設置した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」に移行したため、行動制限の緩和による旅行・観光需用が上昇し、中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数の増加が見込まれる。また、令和5年12月に完了する再開発事業において、住宅棟、ホテル棟、商業棟などが完成することにより、居住人口、中心市街地への来街者数の増加も見込まれている。民間においても、グランドオープンする商業施設のカウントダウンイベントなどを予定しており、中心市街地活性化の機運醸成を図っている。

(3) 「平日歩行者等通行量」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 89～P. 94 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H30	32,937 (基準年値)
R1	31,881 (計画前年値)
R2	28,217
R3	28,084
R4	29,841
R5	
R6	38,660 (目標値)

※調査方法： 平日1日間の午前10時～午後7時までの通行量を測定（悪天候の場合等には予備日にて実施）

※調査月： 各年10月～12月

※調査主体： 市

※調査対象： 中心市街地エリア内計15カ所における自転車及び歩行者の通行量



(単位：人)

	R1 (計画前年度)	R2	R3	R4	R5	R6
A 広島銀行前	1,922	1,675	1,418	1,143		
B vec 前 (旧フタバフルーツパー ラー前)	4,098	3,866	4,039	4,216		
C どさん子徳山駅前店前 (旧藤本 たばこ店前)	2,929	2,663	3,138	2,699		
D 有吉有文堂印房前	1,142	1,089	890	1,039		
E 石田屋ビル前 (新町)	1,064	961	805	845		
F ダイヤビル前	1,462	1,216	1,054	1,138		
G エムラ前	1,753	1,778	1,384	1,327		
H 河村玉煎堂前	727	735	618	620		
I セブネス銀座南	2,330	1,931	2,342	2,805		
J セブネス銀座東	1,161	1,109	921	1,160		
K みずほ銀行・大和証券前	4,974	4,314	4,878	5,943		
L 伊藤ビル前東	1,353	1,156	1,092	884		
M 沖ビル前	1,166	1,084	900	885		
N グランドール徳山前 (岐山通)	1,474	1,699	1,544	1,639		
O 南北自由通路 (南側)	4,326	2,941	3,061	3,498		
合計	31,881	28,217	28,084	29,841		

〈分析内容〉

前年と比べて歩行者等通行量が増加した地点が殆どであり、大幅に減少した地点は少ない。通行量が増加した「地点B vec 前 (旧フタバフルーツパーラー前)」「地点K みずほ銀行・大和証券前」については、令和4年9月に駅前棟がオープンし、駅前で働く人、憩う人が増加したことや、令和4年10月に徳山駅東側駐輪場や屋上庭園が完成したことで、コロナ前の計画前年値を上回った。

また、「地点C どさん子徳山駅前店前 (旧藤本たばこ店前)」は減少しているが、徳山駅東側駐輪場の完成に伴い、令和3年度に設置した仮設駐輪場を閉鎖したことによるもので、設置前と同等の計測値である。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業 (徳山駅前地区市街地再開発組合)

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	徳山駅前商店街の一部を大街区化し、業務・オフィス施設、マンション、生活支援サービス、ホテル、商業施設、駐車場、駐輪場、広場等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)【国土交通省】(令和2年度～令和5年度)
事業目標値・最新	事業目標値5,426人/日

値及び進捗状況	最新値 ー 令和4年度は、令和5年度の再開発施設全体の開業に先立ちTOKUYAMA DECK D1（オフィス等用途ビル）及び駅ビルにつながる駅前デッキや屋上庭園等がオープンした。
事業の今後について	令和5年度完了に向けて整備を進めていくほか、再開発事業完了に先立ち、再開発事業による周辺商店街への回遊、区域全体での集客を図るまちづくりを進めるための検討を中心市街地活性化協議会と連携して行っていく。

②. 徳山駅南口広場整備事業（周南市）

事業実施期間	平成22年度～令和2年度【済】
事業概要	徳山駅南口駅前広場において、交通ターミナルの機能を向上させる整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業【国土交通省】（令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 221人/日 最新値 - 927人/日 令和3年3月完了。
事業の今後について	南側の玄関口が整備されたことによって、街と港との連続性による回遊性の向上が見込まれるほか、周辺の都市開発が進むことが期待される。

③. 徳山駅前北口広場活用事業（周南市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	令和元年度に完成の徳山駅北口駅前広場について、イベント等に活用しやすくするために、利用の際のルール整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 ー 最新値 ー 令和4年7月に「周南市徳山駅前広場等条例」を施行し、駅前広場や施設の適正な管理を行った。また、駅前広場等の施設の使用申請をする際のガイドラインを策定し、使用許可の手続きの簡素化等、イベントを行いやすい環境の整備を進めた。 イベントの実施件数（啓発活動を含む）として、令和3年度

	の 27 件から令和 4 年度は 50 件と増加している。
事業の今後について	令和 5 年度は、徳山駅前周辺施設官民連携管理運営事業の開始に伴い、民間のノウハウを活用しながら、より一層使いやすく快適な駅前広場の管理を進めていく。

④. 徳山駅前市街地再開発事業実施に伴う周辺エリアの回遊性創造プロジェクト（中心市街地活性化協議会、株式会社まちあい徳山）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	徳山駅前地区第一種市街地再開発事業に併せ、中心市街地内の不足業種の洗い出しや、回遊を促すためのマグネットとなるための店舗の抽出、再発見を行うことにより、再開発施設の周辺の商店街への回遊性の向上を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業【経済産業省】令和 2 年度～令和 6 年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 ー 最新値 ー 令和 2 年度のゾーニング&マグネット会議での検討結果に基づき、令和 3 年度からテナントミックス推進事業の特例措置として、重点出店業種に対する補助限度額を最高 100 万円から最高 200 万円とした。 令和 4 年度は重点出店業種に該当する申請はなく、物販・サービス業等の新規出店数は減少しているが、再開発施設のオープンを見込んだ出店もあることから、今後も制度の周知や新規出店希望者の支援を続けていく。
事業の今後について	令和 5 年度以降も、テナントミックス推進事業等による新規出店希望者の支援により、魅力ある店舗の増加を目指す。

⑤. シビックプラットホーム活用事業（周南市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	市役所のシビックプラットホームを、市民の活動の場として活用する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 60 人/日 最新値 1,639 人（通行量調査地点 N グランドール徳山前（岐山通）） 当該事業に一番近い測定地点の通行量は、令和 3 年度の 1,544 人から令和 4 年度は 1,639 人と増加している。マルシェイベントであるしゅうなんシビックマルシェは、昨年度の 3

	<p>回から回数を増やして4回（4月19日、6月20日、12月8日、3月2日）実施された。</p> <p>また、令和3年度からフリーWi-Fiを導入し、Web会議や講演会等で活用されている。</p>
事業の今後について	令和5年度以降も会議室としてだけでなく、イベントでの使用許可を継続することで、賑わいの創出に繋げていく。

⑥. 商店街で育む子どもの可能性を伸ばす場作り事業（株式会社コミクリ）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	まちづくり会社や商店街と連携し、小学生の放課後や長期休暇などに、就業体験やIT学習のできる場を提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値 13人/日</p> <p>最新値 884人（通行量調査地点L 伊藤ビル前東）</p> <p>当該事業に一番近い測定地点の通行量は、令和3年度の1,092人から令和4年度は884人となった。</p> <p>令和3年度は、令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、商い体験は実施せず、オンラインでのITツールを活用した多様な学び体験とした。</p> <p>令和4年度の開催実績はないが、今後も地元団体との連携を検討していく。</p>
事業の今後について	令和5年度については、引き続き地元団体との連携を検討していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和4年度は前年度の実績を上回る結果となり、計画に掲げた事業は概ね順調に進捗している。また、令和5年12月に完了する再開発事業において、居住人口、中心市街地への来街者数の増加も見込めることから、目標達成は可能であると考えられる。

今後は、指定管理者（カルチャア・コンビニエンス・クラブ株式会社）、中心市街地活性化協議会、まちづくり会社等関係機関・企業や既存のイベント実施団体等による「街と駅との連携会議」を開催し、情報共有やイベント等の協働実施を行うことで、官民連携をより一層強化しながら、徳山駅前賑わい交流施設及び再開発施設から生まれた賑わいを中心市街地全体へ波及させていく。